

平成 27 年度普及指導活動に係る外部評価の実施状況について

1 趣旨

広島県の農業技術指導所において、より効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するために、当年度の普及指導計画から選定した普及課題について幅広い視点から外部委員より意見を聴取し、その評価結果を次年度の普及指導計画等へ反映させることをねらいとして実施した。

2 外部評価会議の内容

(1) 外部委員の構成

分野	所属・役職等	人数
先進的な農業者	指導農業士・農園園主	1名
若手・女性農業者	指導農業士・農園園主	1名
農業関係団体	農業団体課長	1名
消費者	消費者団体専務理事	1名
学識経験者	大学准教授	1名
マスコミ	新聞社次長	1名
民間企業	経営コンサルティング会社代表取締役所長	1名

(計7名)

(2) 評価対象

★普及指導計画に定められた成果目標の達成状況

普及指導計画の対象5区分（新規就農者，認定農業者，経営発展志向農家，参入企業，集落法人）のうち、「集落法人」を評価対象とした。（全体736課題のうち集落法人222課題）

※集落法人222課題を一覧として評価対象とするとともに、代表的な5課題について、より詳細な評価を実施した。

【集落法人代表課題】

課題番号	主な品目	集落法人タイプ	担当指導所
①	水稻，アスパラガス，白ねぎ	全戸参加型	西部
②	かんきつ	担い手中心型	西部
③	水稻，アスパラガス，キャベツ，大豆，大麦	全戸参加型	東部
④	水稻，ぶどう，WCS用稲	全戸参加型	東部
⑤	水稻，アスパラガス，キャベツ，大豆，大麦	全戸参加型	北部

★普及指導活動の体制・普及職員の資質向上の取組

組織体制（組織図・普及職員数・普及拠点の過去10年の動向）及び普及職員の資質向上の取組（普及職員研修体系と実施状況）について評価対象とした。

(3) 評価項目

評価対象	評価項目	評価の視点 (例)
普及指導計画に定められた成果目標の達成状況	集落法人一覧	<ul style="list-style-type: none"> ・集落法人に対する普及活動は計画どおり進んでいるか ・集落法人に対する普及活動の目標は達成しているか
	対象の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の選定は妥当か ・将来の発展性や波及効果が期待できそうか
	普及計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・農業者等のニーズや社会経済情勢に合致しているか ・現状を十分に把握し、課題解決に有効な計画となっているか ・具体的かつ妥当な水準の到達目標が設定されているか
	普及活動体制	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な活動ができる所内体制になっているか ・関係機関との役割分担が明確になっているか
	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり活動ができているか ・関係機関との連携が十分に図られているか
	活動成果	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり目標達成しているか (できそうか) ・対象の新たな活動展開や経営発展に向けた成果となっているか
	評価・分析	<ul style="list-style-type: none"> ・成果を的確に把握・分析し、今後の活動に向けた課題が整理できているか ・活動成果の波及が見込めるか (見込めそうか)
上の取組 普及指導活動体制 普及職員の資質向上の取組	組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・普及指導センターの設置数及び設置場所は妥当か ・普及指導センターの組織体制は、効率的な体制になっているか
	普及職員の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・普及職員の設置人数は妥当か ・普及職員の配置は妥当か
	普及職員の資質向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・普及職員の研修体系は妥当か ・普及職員の研修内容は資質向上に資するものになっているか

(4) 外部評価会議の開催状況

【第1回目】※外部委員への事前説明

- ・日時：平成27年10月1日(木) 10:00～15:30
- ・場所：広島県三次庁舎，三次市役所三和支所
アスパラガス，キャベツ栽培ほ場(現地)

時間	内容	参加者
10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・普及指導活動の説明 (チャレンジプラン，普及指導体制，普及指導計画等) ・評価課題の概要説明 	外部委員 農業技術指導所長 農業技術課
13:00～15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・現地調査 (評価課題のアスパラガス，キャベツ栽培ほ場等) 	

【第2回】※外部評価の実施

- ・日時：平成28年2月1日（月）9：30～15：00
- ・場所：県立総合技術研究所 農業技術センター

時間	内容	参加者
9：30～9：50	・外部評価実施概要の説明	外部委員 農業技術指導所長 農業技術課
10：00～12：00	・評価課題実績の説明 (平成27年度普及指導活動実績報告会へ出席)	外部委員 報告課題関係者(市町, J A, 集落法人), 農業技術指導所 農林水産事務所(農林事業所) 畜産事務所, 県庁関係課 農業技術課
13：00～13：30	・評価課題の質疑応答	外部委員 農業技術指導所長, 担当者 農業技術課
13：30～13：50	・評価事項説明 (普及指導組織体制, 普及職員数の動向, 研修 体系等, 評価課題【集落法人一覧】の実績まとめ)	外部委員 農業技術課
14：00～15：00	・評価及び意見整理	

3 評価の概要と今後の対応方針

課題番号①（集落法人代表課題）

1 経営体の概要

- ・水稲作業の閑散期の労力を活用し、通年で収入を得るために、積極的に園芸品目導入に取り組んでいる。
- ・園芸品目は、白ねぎに加え、新たにアスパラガスを導入。アスパラガスではJ-GAPの認証取得を検討中。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
白ねぎ栽培 技術向上支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・圃場づくりと栽培管理支援，病虫害防除指導実施。 ・調製作業の現状把握による作業効率化に向けた作業改善提案。 ・他の集落法人との定期的な集合研修開催による経営部門管理支援実施。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培は順調で11月中旬から計画通り出荷開始。 ・堆肥施用による土づくりの実施によって土壌物理性改善が改善され，収穫機械の稼働率が向上。 ・調製作業の見直しにより調製作業速度が向上。 ・部門管理が徹底され経営検討会等で活用。 ・一部排水性の悪い圃場があり，堆肥投入等による物理性改善に向けたさらなる取り組みが必要。
アスパラガス 基本管理技術 習得支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・新規導入に係る圃場づくりや初期栽培管理，防除指導の実施。 ・アスパラガス導入法人との合同研修会開催による技術習得及び連携支援。 ・J-GAP認証取得に向けた支援実施。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・定植初年目の生育は順調。 ・春芽の安定収量確保に向け，冬季管理を徹底する必要がある。 ・白ねぎとの作業競合時の労力確保に向けた出役調整や収穫・調製作業の効率化に向けた検討が必要。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映方針
<ul style="list-style-type: none"> ・水田地帯への導入品目として白ねぎ，アスパラガスの品目選定は有効。 ・園芸作物導入による多角経営モデル事例として他法人への波及効果が期待される。 ・合同研修会の開催等，技術・情報共有化に向けたネットワークの仕組みづくりが上手く機能している。 ・経営支援により，部門管理や労務管理等，データに基づいた分析・検討が可能な体制が構築されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該経営体はモデル的な経営体であり，他法人への普及・波及を図る場合は，個々の経営体の実情を踏まえた推進・指導が必要。 ・収量等の目標設定水準が低いのではないか。 ・後継者確保が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数字とあわせて生産現場における観察や農業者との信頼関係に基づき，個々の経営体に応じた支援を行うよう留意する。 ・目標設定に関しては，法人と関係機関で共有した数字であり，その目標達成が確実と思われる時点で新たな目標について検討する。 ・経営発展支援の中で，法人自らが後継者を確保するための方法を明確にするよう，支援を行う。

課題番号②（集落法人代表課題）

1 経営体の概要

- ・かんきつを生産する担い手型の法人経営体。
- ・温州みかんの主幹形マルチ栽培やレモンのハウス栽培を導入。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
次期経営戦略策定支援	活動経過	・園地別の収量実績や分析結果を踏まえ、次期経営戦略策定の重要性を提案し、検討会開催の合意を得た。
	成果・課題	・法人経営に対する課題意識と今後のあり方について、若い理事の思いを確認した。経営理念に立ち返った次期経営戦略の策定を支援する必要がある。
主幹形マルチ栽培技術支援	活動経過	・関係団体と連携した栽培講習会開催による適期管理の徹底。 ・定期的な巡回指導の実施。
	成果・課題	・栽培管理状況は良好。 ・成園化に向け構成員間・園地別の作業進捗補完体制の仕組みづくりが必要。
ハウス品目栽培技術向上支援	活動経過	・前年度多発した裂果の原因と今後の対策に向けた情報提供実施。
	成果・課題	・適切な対策実施により裂果の発生を抑えることができた。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映方針
<ul style="list-style-type: none"> ・かんきつ産地での法人経営は例が少なく新たな経営モデルとして期待される。 ・若い世代の後継者が構成員として精力的に活動しており将来性がある。 ・役員モチベーションが高い。 ・経営課題が明確化され、PDCAサイクルが回っている。 ・関係機関との役割分担、連携した活動が展開できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略は策定後の進行管理が必要で、この取り組み強化が必要。 ・主幹形栽培技術支援は、他への波及効果を意識しながらもう少し踏み込んだ指導が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣産地の優良事例を参考にし、所内で情報交換を密に行い、今後取り組んでいく。 ・JA等関係機関と連携して、主幹形栽培のモデルとなるような取り組みを進めていきたい。

課題番号③（集落法人代表課題）

1 経営体の概要

- ・米価の下落に対応し、経営高度化品目としてアスパラガスを導入。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
管理責任者によるアスパラガスの適期作業の実施	活動経過	・圃場巡回や定期的な検討会の開催による病虫害発生状況確認と適期防除指導の実施。
	成果・課題	・基本的な管理作業について理解された。 ・定期的な検討会の開催によって情報共有が図られ、法人に対して適切な助言・指導ができるようになった。 ・特に露地栽培では茎枯病の防除対策（予防散布、初発時の罹病株の早期抜き取り等）の徹底が必要。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映方針
・米価が下落する中、米依存の経営からの脱却を目指し高収益作物であるアスパラガスを導入していることは評価できるとともに、モデル法人として他への波及が期待できる。 ・定期的な検討会の開催による情報共有に基づき適切な助言が行われている。 ・関係機関との役割分担ができている。	・近隣の産地との連携を含めた茎枯病対策の徹底が必要。 ・集落法人が複合経営を目指して新たに園芸品目に取り組んだ事例として、短期的な結果の成否より、その取組プロセスを検証することが他への波及には必要ではないか。 ・後継者確保が課題。	・次年度は茎枯病対策として、簡易な雨よけ栽培を試行する予定。また、他県の研究データを参考に防除体系を見直し、立茎期の集中防除を行うよう支援する。 ・モデルとして位置づけをしており、今後、取組事例としてまとめ、他法人への推進へ活用する予定。 ・後継者の確保については、受入研修生の定着などの支援を行う。

課題番号④（集落法人代表課題）

1 経営体の概要

- ・米価の下落への対応や担い手の育成確保を目的とし、経営高度化品目としてぶどうを導入。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
ネット販売に適したぶどうの栽培技術支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・枝管理作業の省力化に向けた植物成長調整剤利用展示ほの設置及び効果検証。 ・出荷期間の延長による有利販売に向けた長期貯蔵試験の実施。 ・定期的な巡回指導及び実績を踏まえた栽培管理課題の整理、今後の方針検討。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・植物成長調整剤の利用によって一部の品種では、枝管理作業が25%省力できることが明らかとなった。 ・植物成長調整剤による枝管理の直接的な省力効果の低い品種においても、作業ピークの分散に効果があることが分かった。 ・長期貯蔵試験の実施によって、ピオーネでは1か月以上の貯蔵は困難であるものの、シャインマスカットについては実用性が期待できることが明らかとなった。 ・展示ほ結果等を踏まえた作業の効率化による適期作業の実施と、栽培管理技術の平準化による秀品率の向上を図る必要がある。
後継者の募集及び育成方法の検討	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ぶどうの面積拡大に向け、優良農地確保についての検討実施。 ・研修生の受入れに係る役員意向把握実施。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年を目標に研修生の受入れを開始する意向を確認。 ・補助事業の活用が困難となり、当初予定スケジュールでの面積拡大が困難となったため、スケジュールの見直し検討が必要。
コシヒカリの収量向上	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場巡回や役員からの聞き取り等を踏まえ栽培管理指導実施。 ・WCS用稲栽培におけるコスト低減技術として鶏ふん堆肥の利用を検討。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培ほ場の条件により、現状以上の収量向上は厳しいため、白米出荷による高単価販売に重点をおく。 ・WCS用稲における鶏ふん堆肥の利用は、コスト低減を図る技術として実用性が高いことが確認できた。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映方針
<ul style="list-style-type: none"> ・有利販売を目的としたぶどうの出荷期間延長はニーズを踏まえた取り組みで、実用化が期待される。 ・新たな技術導入に向け試験研究的な新たな取り組みにチャレンジしている。 ・関係機関と連携が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に定着する後継者の確保。 ・ぶどうの出荷期間延長に向けた取り組みについて、今後どのように県内に普及させていくのか方針を明確化する必要あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者の確保は、今後、農業技術大学校生等とのマッチングなどを検討する。定着支援として研修、就農後のサポート等様々な角度で検討を行う。 ・県内で一定品質を維持するため栽培管理方法や貯蔵方法を検討し、結果を共有し、他産地へも波及させるよう活動を行う。

課題番号⑤（集落法人代表課題）

1 経営体の概要

- ・地域の労力活用・収入確保のため、経営高度化品目としてアスパラガスを導入。
- ・米価下落の影響から、新たに大規模経営体と連携した冬作キャベツ栽培への取り組み開始。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区分	実施状況、成果等の概要
アスパラガス栽培技術向上支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な栽培技術資料の発行及び講習会，個別巡回による適期管理の徹底。 ・聞き取り調査等による栽培管理や労働時間の把握と他法人との比較による検証・改善提案活動実施。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に比べ単収は向上したものの，9月以降の病害発生による減収が課題。 ・作業者の高齢化により取り組み継続に向けた不安あり。
キャベツ栽培技術向上支援	活動経過	<ul style="list-style-type: none"> ・法人と大規模経営体とのマッチングを図り，双方の意向を反映した作業の分担やスケジュール作成を支援した。 ・冬作品種の提案，栽培体系の検討実施。 ・鳥獣害被害防止に向けた効果的な侵入防止柵を実証展示。
	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模経営体との連携により，冬作キャベツ4.3haの栽培実施。 ・作業スケジュールに係る2経営体間での意思疎通の強化が課題。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映方針
<ul style="list-style-type: none"> ・大規模経営体との連携による園芸品目の産地拡大手法のモデルとして波及効果を期待する。 ・問題解決にあらゆる方法を試そうとしている事は良い。 ・関係機関との連携が図られている。 ・獣害に対し適切な対策が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2経営体間の十分な連携調整と役割分担の明確化が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての集落法人と大規模経営体との連携の取組で，課題や確認事項が明確化された。今後の取組については，この事例を生かして，波及に努める。

集落法人一覧課題

1 対象

- ・県内 222 法人の個別課題。

2 普及指導計画の実施状況と成果等

- ・平成 27 年度の「売上目標」「成果指標の達成状況」「普及指導活動の成果と課題」「今後の対応」を一覧として整理。

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映方針
<ul style="list-style-type: none">・問題点はあるが、それを踏まえて今後の課題として取り組む計画が立てられている。・集落法人が経営の複合化を検討する際、販売先の確保は必須であるので、JA・全農等との連携が十分図られるよう、あらかじめ協議の場を設ける等、引き続き取り組んでほしい。・法人設立数は国内トップレベルではないか。	<ul style="list-style-type: none">・新品目（アスパラガス等）の導入で病害の影響が大きい印象。対策を万全にするなどした上で導入を図ってほしい。	<ul style="list-style-type: none">・導入品目については、栽培管理体制の構築や栽培技術向上など、個々の課題を明確にしながら、今後支援を行う。

普及指導活動体制・普及職員の資質向上の取組

1 普及指導活動体制

- ・広島県農業技術指導所管内図，組織図，普及職員数（中国四国各県等との比較）

2 普及職員の資質向上の取組

- ・広島県普及指導員研修体系，研修実施状況

3 評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	今後の対応
<ul style="list-style-type: none">・少ない人数体制でよく頑張っている。・知識習得のための研修を十分行っている。・研修内容については、十分検討されている。	<ul style="list-style-type: none">・より細かい指導ができるように体制を強化してほしい。・県域チーム，普及指導チーム，研究，他部局との連携について明確にする。	<ul style="list-style-type: none">・所内会議，県域会議，研究との連携会議等で情報交換を密に行い，役割分担を明確にして取組むよう努める。